

令和 4 年度
横浜市立高等学校
自己評価書

横浜市立戸塚高等学校定時制

<学校情報>

1 課程・学科 定時制・普通科

2 学校長 栲澤 一彦 (令和5年4月1日現在 在職 1年目)

3 学校教育目標

- 勤労を尊び、学ぶ喜びを持った生活を営む態度を育成する。
- 自主的・積極的に学び、行動する態度を育成する。
- お互いの人権を尊重した集団生活を営む態度を育成する。

4 教育方針

- 生徒がお互いの良さを認め合い、安心して学べる環境を作る。
- 基礎基本の学力の定着を図り、卒業後の社会に積極的に関わる意欲を育てる。
- 教職員の組織的な教育活動を通して、生徒一人ひとりに対応した指導を実践する。
- 授業、行事、課外活動など4年間の体系的な指導を通して進路実現を図る。
- 教職員が相互に尊重し連携することにより、常に自己改善を目指した組織運営を行う。

5 教職員数 (令和4年12月1日現在)

学校長 1 校長代理 1 副校長 1 事務長 0
教諭 27 (男18、女9) 養護教諭 1
実習助手 0 事務職員 3 技能職員 1
A E T 1 非常勤講師 9

6 生徒在籍数 (令和4年12月1日現在)

年次(学年)	学級数	男子	女子	合計
1	2	10	5	15
2	1	3	3	6
3	2	6	8	14
4	2	12	5	17
合計	7	31	21	52

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		29	29	100.0%
生徒	1年	16	14	87.5%
	2年	6	6	100.0%
	3年	14	13	92.9%
	4年	17	15	88.2%
	合計	53	48	90.6%
保護者		52	24	46.2%

8 自己評価実施日

教職員	令和4年10月31日～令和4年11月11日
生徒	令和4年11月11日
保護者	令和4年10月31日～令和4年11月11日
地域	令和4年10月31日～令和4年11月11日

9 集計・分析期間

令和4年 11月14日～令和5年 2月24日

10 自己評価書の公表方法・時期

- 保護者に対しては振興会理事会で冊子を配布し、説明を行う。
(3月実施)
- 地域住民に対しては、「学校運営協議会」で冊子を配布し、説明を行う。
(2月実施)
- ホームページに掲載する。

<自己評価>

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 1～14, 23, 24, 27、生徒 3, 10、保護者 1, 3, 5、地域 9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での実践・取り組み ・観点別評価の施行・取り組み ・4学年「実践学習」の実施および3学年「実践学習」の準備 ・表現プログラムの実施 ・学校情報の外部への発信（HPの運用、ミニ学校説明会の実施など）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による学校評価「1 魅力ある高校教育の推進に向けて学校全体として取り組んでいる」では、100%という高い数値を示している。 ・保護者による学校評価「1 本校に入学させて良かった」では、95.8%と高い数値を示している。 ・生徒による学校評価「10 本校の生徒であることに誇りを感じている」では95.8%と高い数値を示している。 ・4年制の夜間定時制高校として、ゆっくりじっくり学びながら卒業後の自立を目指す教育活動が徐々にではあるが成果として表れてきている。また、お互いに学び合える風通しの良い環境を整備することにより、教職員一人ひとりの指導力およびチーム学校としての学年主任を軸とした組織力が向上し、生徒指導等に活かされている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価「3 生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている」では、75.1%という数値を示している。本校は不登校を経験し、他者との関わりの薄さや自信のなさからくる自己肯定感が低い生徒が多数在籍している。教科指導・部活動・特別活動など様々な教育活動を通して支援を続け、自尊感情を高めていく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動を通して、他者や地域のために貢献していると実感させることで、自分がかげがえのない存在であることを理解させ、自尊感情を育てていく。 ・学校運営協議会を通して、地域での生徒の居場所づくり、インターンシップ、ボランティア活動などが積極的に行われるようになった。令和5年度も地域との綿密な連携を継続し、生徒が地域・社会とのつながりを持てるよう支援を行う。

2 教育活動の状況

□教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 2～3、生徒 1、保護者 2)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2 学年は基礎基本の定着を目指した科目を多く配置し、3・4 学年には進路や適性、興味関心などに応じて学ぶことができるように選択科目を多く配置している。1・2 学年の「学び直し」では、学生ボランティアを募り、個別指導に近い状況で授業を実施している。 ・ 令和 3 年度より 4 学年で必修化した「実践学習」では、生徒が卒業後の進路を考える機会設定および卒業後に求められるスキル習得を目指す授業を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員による学校評価「2 教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。」において 100% (令和 3 年度 93.1%)、保護者による学校評価「2 本校の教育課程は、生徒の進路実現や適性に応じたものとなっていると思いますか。」では 91.7% (令和 3 年度 89.7%) の非常に高い満足度が得られた。基礎基本の定着を目指す「学び直し」、進路指導にもつながる「実践学習」、そして習熟度別指導の実施や様々な選択科目の設置などによって、少人数で丁寧かつ細かい指導をしていることが理由と考えられる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒、保護者には肯定的に捉えられている教育課程であり、令和 3 年度は教職員による学校評価「2 教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。」で改善を必要とするが 6.9% と出ていたが、令和 4 年度は 0% と改善の成果がうかがえた。要因の一つとして、2 年目となった「実践学習」に対する高評価や新教育課程での 1 学年の学習が順調にスタートしたことなどが考えられる。高い評価を維持するためにも、引き続き本校の実情にあった教育課程や観点別評価について考え続ける必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「実践学習」を含め、教科「学び直し」をより充実したものにすべく、引き続き指導の工夫・改善を行なっていく。 ・ 学習面において様々な課題を持った生徒に対応するため、現在実施している習熟度別授業の適正な運用を図っていく。

□教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 4, 5, 6, 18、生徒 1、保護者 6)

取組	<ul style="list-style-type: none">・年度当初に各科目でガイダンスを行い、科目の設置目標、学習内容、学習評価について説明をしている。・1・2学年では基礎基本の定着を目的とした科目を多く設置し、3・4学年では進路や適性、興味関心に応じ学びを深めることができるように選択科目を多く設置している。・平成24年度より学校設定教科「学び直し」（科目名は1学年「基礎学習」・2学年「発展学習」）を設置した。内容は国語、数学、英語の中学校までの再学習であるが、確認テストも取り入れ、基礎・基本の定着を目指して学習を進めている。・令和3年度より同教科に科目「実践学習」（4学年）を新設し、生徒の希望する進路実現へ向けて、より実践的な学習を進めている。
成果	<p>・生徒による学校評価「1 希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている」での肯定的評価（95.9%）は、令和3年度（69.2%）より大幅に向上している。保護者による学校評価「6 希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている」の肯定的評価（91.7%）も、令和3年度（75.6%）より大幅に向上している。教職員による学校評価の教科指導に注目すると、肯定的評価は、「4 学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している」（100%）、「5 生徒の実態に応じて指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている」（91.7%）、「6 観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている」（100%）であり、令和3年度（それぞれ 89.7%、89.7%、75.9%）と比べ良い結果となっている。教科指導について、生徒と保護者、教職員ともに高く評価されている傾向が見られた。少人数の授業で、きめ細かな指導を行うことが出来ていることが理由の一つと考える。</p>

<p style="text-align: center;">課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価「1」においては、高い満足度であるが、一部の生徒が否定的にとらえていることから、生徒の授業への意欲を高め、進路への取り組みをどのように促していくか、個々の生徒に対応したきめ細かい指導が今後の課題となる。 ・教科「学び直し」等により基礎・基本の定着という面で、ある程度の成果を残しているものの、本校には様々な背景や課題を持った生徒が在籍しており、学力の差だけでなく学習意欲にも大きな差が生じている。令和3年度より設置した「実践学習」を、令和5年度からは3学年にも設置するが、それを生徒の学習意欲の喚起につなげることが課題である。卒業後の進路を意識させ、どうすればより効果的な指導ができるか、各教科においても創意工夫する必要がある。
<p style="text-align: center;">改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、観点別評価の実施にあわせ、評価のあり方、授業の改善を継続的に行っていく。また、学習意欲が低い生徒に対する指導については、普通教科だけでなく学校設定教科「学び直し」も含めた学校全体の課題として取り組んでいく。 ・4学年だけでなく3学年にも「実践学習」を設置し、卒業後の進路を意識した授業展開を推し進めていく。

□特別活動・部活動の状況

(関連アンケート番号：教職員 7、生徒 3, 10、保護者 4)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が減少している中で、全員がいずれかの委員会に所属している。掛け持ちをしている生徒も多くおり、委員長や生徒会執行部役員が連携し、行事ごとに役割を分担して活動している。 ・社会で必要とされるコミュニケーション力や表現力を育成することを目標に、総合的な探究の時間で「表現プログラム」を実施している。体験的な学習によって、情緒豊かな人間形成を図り、「生きる力」を育む機会となっている。学校行事の演劇祭は、これらの発表の場としても機能している。 ・部活動では、生徒数の減少により参加生徒が少なくなっているが、意欲的に活動を行っている。また、年度当初の新入生歓迎会で呼びかけ、生徒たちの部活動への参加意識を高めている。教員も生徒たちの活動を手厚くサポートしている。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価「3 生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている」では 75.1%が肯定的な回答をしている。可能な限り教員でなく生徒による運営を目指した成果と考えられる。 ・保護者による学校評価「4 学校行事や生徒会活動は充実し、積極的に参加している」では 91.7%が肯定的な回答をしており、令和 3 年度の 76.1%から大きく増加した。多くの行事を企画し、生徒が活躍する機会を設けていることが、この評価に繋がっていると考えられる。また、「分からない」と回答している割合が、前年度の 13%から 8.8%減少し 4.2%となっている。行事の様子を即時、ホームページに掲載していることが要因だと考えられる。 ・教職員による学校評価「7 生徒の主体的、自律的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している」では 91.7%が肯定的な回答をしている。先に述べたように、生徒主体で行事や活動を運営できるように指導を続けているからだと考えられる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価「3 生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている」では 25%が否定的な回答をしている。本校には不登校を経験している生徒が多く在籍していることもあり、生徒会活動や委員会活動の経験が少ないことが考えられる。様々な生徒状況を理解したうえで、引き続き適切な指導の仕方を考えていく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・75%の生徒が、感染症拡大対策下においても活動を主体的に行っていると感じていることは、生徒自身の成長と自信につながっている。今後さらにこの割合を増加させ、課題を解決するために、引き続き生徒に合った仕事の割り振りを行う。また、十分な準備時間をとり、片付けなどを一緒に行うなどして適切な支援を行い、生徒の主体的な取り組みを支える。

□生徒指導・教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員 9、生徒 2, 4, 5、保護者 3, 5、地域 3, 4, 5, 8)

<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防、感染拡大防止のための取組の一環として、登校時の「健康観察票」確認時に当番職員が生徒一人ひとりに声をかけ、健康観察以外にもコミュニケーションを図っている。 ・さまざまな課題を持つ生徒に適切に対応できるよう、定期的に生活指導に関する職員研修会を開催している。令和4年度も令和3年度に引き続き「特別支援を要する生徒への対応法」について複数回研修を行った。 ・カウンセリングを必要とする生徒が多いため、担任との面談や交流センター(保健室)の養護教諭等を中心に、全職員で協力しながら対応している。 ・問題行動を起こした生徒については、全職員で情報を共有し対応を協議する場を職員会議等で適宜設け、適切な対応法を共有している。 ・生活指導部内で2週間に1回、全職員で月に1回、全生徒個々に関するの情報交換を行う場を設けている。 ・生徒個々の特性理解に立脚し、卒業後の望ましい将来像を見すえた適切な支援がなされるよう、学校関係諸機関との連携を密に行っている。 ・週2回来校するスクールカウンセラーと全教職員が綿密に連携し、教育相談効果の向上を図っている。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による学校評価「9(学校は)生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている」の回答において、83.3%が肯定的にとらえているが、令和3年度比約9.8%減となった。また、保護者による学校評価「5(学校では)生活習慣や規範意識を身につけるための適切な指導が行われていると思うか」においては、79.2%が肯定的にとらえているが、令和3年度比1.2%減となった。このことは、本校教職員の細やかな生活指導が継続的に行われてはいるが、生徒の課題が多様化してきており、改善、好転の結果が短期的に顕在化されないことが一因と考えられる。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動全般における生徒への特別支援が、継続的かつ綿密に行われつつあるが、生活指導の特徴としてすぐには結果に結びつかないことから、短期的には実感しづらい面があるといえよう。今後も、課題をもつ生徒に対して、さまざまな視点からアプローチできるように指導方法を学び、実践していく必要がある。

改善策	<ul style="list-style-type: none">・支援の必要な生徒に対し、個に応じた段階的に指導していく。・校内だけでなく、関係諸機関と連携を図り、適切な生徒指導へとつなげるネットワーク作りと教員研修を行う。・生徒個々の特性理解に立脚し、卒業後の望ましい将来像を見すえた適切かつ特別な支援がなされるよう、学校関係諸機関との連携も含めた職員研修を継続し、さらなる生活指導・支援の充実を図る。
------------	--

□進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10、生徒 6、保護者 2,6)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に応じたガイダンス年間計画の作成 ・4年「実践学習」の年間カリキュラムの検討 ・『ハンドブック』を作成し、組織的な支援体制を強化 ・外部団体との連携による講習会の開催 ・卒業後の進路観を深めるための、若年層就労支援団体との協力 ・上級学校、企業団体との情報交換を基にした進路先の開拓 ・職業観を養うための、就労体験先の開拓 ・一人ひとりの生徒に対する積極的な声掛けや面談、きめ細かい指導の実施
<p>成 果</p>	<p>就職活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同企業説明会への参加が令和3年度よりも増えた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の点から説明会が縮小、入れ替え制で開催された。 ・ウェブによる採用試験があったが、学校のPCを活用し対応した。 ・求人票をデータで取りまとめたことによって、生徒が企業探しや企業選択を簡易的に行えるようになった。 ・就職希望者8名、全員内定をいただくことができた。 ・産業カウンセラーを通して、自己肯定感を持ち、進路決定に結び付けることができた。 <p>進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『進路の手引き』を作成し、進学・就職に関する共通のガイドブックとして活用した。 ・4年生の保護者面談にガイダンス部の教員が同席し、進路に関する情報提供や活動スケジュールの確認等を行うことで、生徒は前向きに進路活動に取り組んだ。 ・教員間で情報共有を行い、生徒や保護者と連絡を密にすることで、生徒の進路について慎重に丁寧に対応することができた。 ・職業訓練校や就労移行支援機関、横浜市青少年育成課との情報交換が、生徒の進路選択に役立っている。 ・4年「実践学習」の授業で一人ひとり課題についてレポートを作成し、「社会人」「就職」「進学」に対する心構えを身につける機会とした。 <p>キャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトが困難な生徒に対して就労体験場所を開拓し、就労体験を継続的に行っている。 ・2学期より横浜市「高等学校出張相談事業」を活用して生徒や保護者等の相談活動を定期的実施している。

<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価「6 進路説明会等で進路に関する情報を十分に理解している」について、肯定的な意見が令和3年度よりも7.3%減少した。これは令和4年度に「職業理解講座（全3回）」や「社会人と話そう（全2回）」を学校評価アンケート実施後の3学期に予定しており、進路情報の理解度が数値に正しく反映されていないためである。 ・保護者による学校評価「6 希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている」では、「わからない・否定的回答」が3年生で25%だった。一方で1, 2, 4年生は0%だった。3年の保護者に対して進路に関する情報共有が不足していることが課題である。 ・アルバイト等の就労経験がないまま就職することによる企業とのミスマッチを防ぐ対策を急務と考えている。アルバイト（就労）が難しい生徒に対しては、外部団体との連携により就労体験場所を提供し、自立支援を早い段階で行えるよう体制をさらに強化することが課題である。 ・就職を視野に入れて、在学中に自己肯定感やコミュニケーション能力、主体性、協調性などを伸ばすことができるよう、生徒の実情に合わせた支援に取り組む必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業体験やアルバイト体験など外部と連携して体験的なキャリア学習の機会を具現化する。 ・令和5年度から開講予定の3年生「実践学習Ⅰ」の授業カリキュラムについて、4年生「実践学習Ⅱ」に効果的に結び付けられるよう、内容や手順等を具体的に検討、調整する。 ・保護者に対して進路情報の提供および情報共有について、各学年の適切な時期に行えるよう、進路説明会や面談の回数を増やす。

□保健指導及び環境美化の状況

(関連アンケート番号：教職員 11, 12、生徒 7, 8、保護者 7, 8)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの健康状態を入学時の保健調査票、及び年度当初に計画されている定期健康診断にて把握し、学校生活において安全を図っている。 ・心身ともに不安定な生徒が多いため、教職員による日常の声かけを密にし、生徒の心身の健康状態を把握することに努めている。課題を抱えている生徒を発見した際は早急に相談活動を行い、関係職員と情報を共有し、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部関連機関にも繋げている。 ・年に3回「街をキレイにし隊」と題して有志生徒が地域清掃活動を行っている。地域社会の一員であることを自覚させると共に、美化活動を推進する機会としており、自主参加でありながら毎回多くの生徒が参加している。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価「7 学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。」では 93.8%の生徒が肯定的に捉えている。日常のコロナウイルス感染防止対策に加え、健康講話等の講演含め、日常のあらゆる場面で健康を自己管理できる能力の育成を進めていくことが必要である。「8 学校は清掃活動や環境美化について積極的に取り組んでいる。」は 93.8%が肯定的であった。日常からの清掃活動に加え、年3回の地域清掃が生徒の美化に対する関心に大きくつながっていると感じる。 ・教職員による学校評価「11 学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。」では、100%の職員が肯定的にとらえていた。職員全体に感染症対策の意識が定着していると感じる。「12 資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。」について肯定的に捉えている職員は 66.7%にとどまった。省エネやリサイクルに対する意識の改革を進めていく必要がある。 ・保護者による学校評価「7 生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている」では、83.3%が肯定的に捉えている。保護者とともに生徒の健康観察を行っている結果であると思うが、学校として保護者に子どもの健康管理のお願いについて、さらなる呼びかけが必要であると感じる。「8 校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。」は 91.7%が肯定的であった。日常の清掃活動を丁寧に行っていることや、年3回の地域清掃活動の規模が年々大きくなっていることが、この評価に繋がっていると考えられる。

<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の健康管理については定着しているが、社会の変化とともに対応も変化をしている。生徒、保護者に対して丁寧な情報発信を続け、学校における健康管理について理解してもらう必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 自己の健康管理の大切さを啓発してゆくことにより、責任を持った行動をとれるよう育成する。また家庭においても生徒の健康面での支援を丁寧に行っていただくよう情報提供をしていく。 ・ ゴミの分別については、日常の活動から意識を持って取り組ませる。地域清掃活動は生徒の意識を高める行事となっているため、より効果的なものになるよう工夫をしながら実施をしていく。

3 学校経営の状況

□教育目標の設定・実施の状況

(関連アンケート番号：教職員 13～28、生徒 4～14、保護者 5, 7～10、地域 9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力向上を図り、社会人基礎力を育成する。 ・教科指導および学校行事等を通して、何事にも粘り強く取り組み、他者と積極的に協働できる生徒を育み、その自立（律）を支援する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による学校評価「13 学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる」では、100%という高い数値を示している。風通しのよい職場の中で、教職員が協力して生徒が安心・安全に過ごせるよう情報交換を密に行いながら教育活動に取り組んだ結果と言える。 ・生徒による学校評価「4 先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている」が、95.8%と高い数値を示している。生徒一人ひとりに寄り添い、適切な支援を行ったせいかと考える。 ・保護者による学校評価「5 生活習慣や規範意識を身につけるための適切な指導が行われている」が79.2%となっている。家庭との情報共有を密に行った結果であるが、今後もさらに高めていきたい。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価「9 総合的な探求の時間では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった」では、72.9%と令和3年度よりも低い数値となっている。協働活動を通して、他者の考えを認め、自分の感情・考えを他者に分かりやすく伝えるという、本校生徒が苦手とする分野だけに、今後も生徒の実情に合わせた改善と教職員・講師によるさらなる支援が必要である。 ・本校の現段階における全ての課題や問題点について議論を尽くすことはできず、課題を残すこととなった。引き続き全職員での議論を続けていく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の強みを生かした個々の生徒に応じた適切な支援を今後も続けるよう、職員間での情報共有や学び合い、風通しの良い環境づくりを心掛ける。 ・特別支援教育の視点を持った取り組みが必要であるため、職員研修や高等特別支援学校・外部支援機関との連携を深めることで課題解決に取り組む。 ・様々な行事を通して学年間だけでなく、他学年の生徒との交流を深めることにより、安全・安心な学校づくりをさらに推進していく。その中で、お互いを認め合い、自己肯定感を高める取り組みを増やしていく。

□保護者・地域等との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員 23, 24, 27、生徒 8、保護者 1～10、地域 1～9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への貢献活動として、年3回の地域清掃活動「街をキレイにし隊」を行い、地域社会の一員であることを認識させる。 ・地域の施設において、様々な活動や交流を通してボランティア精神を養う。 ・地域の人材や資源を活用し、社会との関りを持ち、自己表現力を伸ばし、居場所を創れる生徒を育成する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者による学校評価「1本校に入学させて良かった」では、95.8%と高い数値を示している。本校の教育活動への理解が深まっている結果と言える。 ・生徒による学校評価「8学校は清掃活動や環境美化について積極的に取り組んでいる」では、93.8%と高い数値を示している。多くの生徒が清掃活動に積極的に参加しており、その成果を実感していると考えられる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者による学校評価「10学校の様子を家庭への配布資料や学校HPなどを通じて十分かつ適切に行われている」では、75%という数値を示している。まだ十分とは言えず、引き続き保護者全員に伝わる手立てを考える必要がある。 ・地域による学校評価「生徒は社会貢献（地域清掃やボランティア等の取組）の活動により地域に貢献している」では54%と低い数値になっている。生徒の積極的な活動と反し、地域には本校の活動がまだ浸透していない結果と言える。今後も引き続き地域でのボランティア活動やインターンシップを通して、本校の教育活動を知ってもらい、さらなる連携を構築することで情報の共有が図れるように取り組んでいく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページのさらなる充実を図り、保護者への情報提供を定期的に行い、本校の教育活動への理解を深めていく。 ・地域でのボランティア活動やインターンシップ、夜間清掃等の地域貢献活動への取り組みを積極的に情報発信するとともに、地域からも学校の頑張りを発信してもらうために、学校運営協議会を通じ、地域との連携をさらに深めていく。

□危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員 25・26、生徒 13、保護者)

取組	<ul style="list-style-type: none">・学校安全計画、学校防災計画に沿って、避難場所、避難経路、避難方法等の周知徹底を図る。・台風等の自然災害情報が入ったら、生徒の安全確保を最優先し、早めに判断と対応をとり、状況を周知する。
成果	<ul style="list-style-type: none">・令和4年度は多目的ホールでの集会中に地震が起きた想定での避難訓練を新たに行い、どのような状況においても安全第一の行動をとることが原則であるという意識をもたせることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・令和3年度に比べ、避難経路を把握している生徒の割合が上昇しているため、引き続き安全指導の徹底が必要である。・1次避難後の生徒の動き、教員の動きが明確に定義されていないので、生徒の安全を確保するために避難後の体制の確立を図る必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・令和5年度も令和4年度に引き続き、多目的ホールからの避難訓練を行い、安全指導を徹底する。・合わせて、1次避難後の生徒の安否確認の体制、2次避難への移行体制を確立し、非常時に際して万全の備えを行う。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 28、生徒 5)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時の生徒・保護者に対して、いじめには毅然とした態度で対応する本校の方針を明確に伝えている。 ・学校HPを通じて、いじめ防止基本方針を掲載し、生徒に対して全校集会、各学級等でその旨を伝えるとともに、いじめ防止の呼びかけを適宜行っている。 ・学級担任を中心として、全教職員による定期的な教育相談を実施している。 ・定期的にいじめアンケートを実施している。 ・毎月いじめ防止対策委員会にて、生徒の状況把握と情報交換を行っている。 ・いじめ防止に関する職員研修を開催している。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による学校評価「28 いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる」において100%の肯定的評価があった。いじめを防ぐために、些細なことでも速やかに、かつ組織的な対応を図り、問題を初期段階で解決させる指導体制を教職員全体で継続して行った成果と考えられる。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価「5 学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている」において91.6%が肯定的に捉えており、令和3年度とほぼ同じ数値であった。誰もが安心して安全に学べる場と思えるような学校にしていくために、いじめに対する意識啓発を、今後も継続的に取り組む必要がある。 ・SNS上での生徒間での深刻なトラブルが増加している昨今、そのトラブルの要因が表面に現れにくい特性を理解するとともに、いじめを防ぐために全生徒へ定期的な啓発活動を行い、いじめをしない・させない環境作りに努める必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを防ぐために、全生徒への学習会や定期的な啓発活動を行いいじめをしない・させない環境作りに努めるとともに、当事者以外の者からの情報提供もされやすい雰囲気作りを心がける。また、いじめに関する情報が入った場合は、些細なことでも速やかに、かつ組織的な対応を図り、問題を初期段階で解決させる指導体制を今後も継続する。 ・からかいやふざけ等からいじめに発展させない初期対応の一環として、いじめの定義や特性を保護者や地域住民等にも理解してもらうために、学校HPや配布物等で積極的に情報発信し、啓発する指導体制を今後も継続する。